

健康づくり（健康づくりセンター着工延期を受けて）

姫川病院の閉院を受け、地域医療の緊急対策のために仮称「健康づくりセンター」の着工を当面延期する説明が文教民生常任委員会で行われました。

市民の安心・安全の確保のために地域医療体制の確保は最優先課題であることはいうまでもありません。

一方、医療保険・介護保険制度の維持のためには健康づくりを推進して健康寿命の延伸を図り、医療費・介護経費の削減することは同時に進めていかなければならない重要な課題です。即効性のある施策ではないだけに少しでも早く取組み、その効果の早期発現を求めないと社会保障制度の根幹に関わる問題となってきます。

①健康づくりのソフト計画は、どのように定められ、進められるか。

地区運動教室モデル事業が本年度から3地域の公民館で行われています。今後全市に展開するスケジュールは今のところ明確ではありません。

運動教室のリーダー役となる運動推進員の養成も急務となります。7月の時点で4名の方が養成を受けていたそうですが、今後、相当数の運動推進員の要請が必要です。全市への展開に大きな影響を与える部分でしょう。

市の健康運動指導士が考案した誰にでも出来る有酸素運動や筋トレ、ストレッチ等を行っていますが、今後、個人の健康度に応じて個別メニューを立てていく必要があります。

個人データの管理とメニューの組立、効果測定値の評価などの個別対応メニューは健康づくりセンターの建設、地域情報基盤整備と関連してソフト面の有効利用とリンクして考えていく必要があります。

各教室のリーダーは養成された運動推進員が努めるわけですが、個人データを活用して効果的な健康運動を推進するためには、個人情報取り扱いの面できちんとシステムを作り上げなければなりません。

地域情報化の問題ともリンクして、高速通信網を使ったサーバー管理システムや、個人カードにデータを集積する方法などもあります。健康づくり担当部署の立場からも地域情報化に関心を持って提言していく態度も必要だと思います。

②健康づくりの効果の発現時期、求める効果の大きさ等の目標を定めなければならない。

健康づくりに関しては、市全体の効果の発現とその把握ができるまでには少し時間が掛かると思いますが、「健康づくり全体のスケジュール」と「効果の発現目標（時期、数値、金額）」をリンクさせて検討するべきではないかと思います。

健康づくりに取り組む必要性は誰もが否定しないと思いますが、目標設定なしの取組は、取り組んだだけで満足し、結果を求めない気風に繋がってしまいます。

取組の必要性を認め、市長の公約、方針として主体的に取り組むのであれば、目標設定は不可欠であると思います。目標設定が困難な項目であることは分かりますが、それは目標を定めない理由にはなり得ません。

行政は、結果主義、成果主義でなければならないという観点から目標を定め、必要に応じて変更していく必要があります。

確かに糸魚川市規模では、1人の重病人が全体の医療費に大きな影響を与えますので、医療費全額での削減を「健康づくりの指標」にすることは適当ではないでしょう。

健康づくりの直接の対象となるのは「生活習慣病」でしょうから、「生活習慣病患者を削減する」「生活習慣病に関わる医療費を削減する」といった、「データ」と「分析方法」がセットになった目標設定と進ちょく管理が必要です。

具体的に数値で目標設定することは、担当者にとって厳しい状況を招きます。しかし、民間企業であれば当然のことです。

目標設定して、事業を計画・実行・検討・改善するPDCAサイクルを適切に廻していかなければ、事業を行っている自己満足だけに陥ってしまう可能性があります。

③仮称「健康づくりセンター」の発注を見合わせる方針が説明されていますが、その延期期間のおおよその見通しは。

④延期後の発注時におけるソフト面と関連づけた建築計画の見直しも視野に入れなければならない。

新市建設計画の中では、総合福祉センターの建て替え、市長の「健康づくり」の公約により仮称「健康づくりセンター」として計画され、7月20日の文教民生常任委員会で詳細設計の内容が報告されました。同時に副市長から、市長の発注延期決定の報告がありました。

総合福祉センターの建て替えの意味もあるため、これまで須沢地区でも数回にわたり説明会が開催されてきたところでもあり、発注延期決定に当たっても須沢地区で説明会が開催されました。

その際、延期は2年程度という説明がなされましたが、2年後になると、特にソフト面では、地区の運動教室も本格化し、色々な検討要素が出てきているかもしれません。全国的にも参考とすべき先進例が出てくる可能性もありますし、介護予防と健康づくりの複合的な動きも活発化してくる可能性もあります。

必ずしも、発注前に見直す必要があるかどうかは分かりませんが、その必要性を認識しておくことが重要だと思います。